

WEEKLY SIGNAL

平成30年9月21日(金) 1442号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	9/24(月)	9/25(火)	9/26(水)	9/27(木)	9/28(金)
無担保O/N			△0.086% ~ 0.001%		
銀行券		+ 300	ト ン	△ 1,000	△ 700
財政他		+ 4,600	△ 4,000	△ 15,000	△ 4,800
資金需給		+ 4,900	△ 4,000	△ 16,000	△ 5,500
主な要因		国庫短期証券発行・償還(3M)		地方貸回収 国債発行(40年)	
オペ期日		共通担保 △ 1,400 CP等買入れ △ 700 補充供給 + 1,600			
オペスタート	祝日	共通担保 + 2,100 国債買入 + 8,700 ETF買入 + 200			
(日本)		日銀金融政策決定会合の 議事要旨公表(7月30、31日分) 黒田日銀総裁、講演(大阪市内) 企業向けサービス価格指数(8月) スーパーマーケット売上高(8月) 景気動向指数(7月、改定値)		黒田日銀総裁、挨拶 (全国証券大会)	日銀金融政策決定会合の 主な意見(9月18、19日分) 日銀、当面の長期国債等の 買い入れの運営について 鉱工業生産(8月)
(海外)	欧 ドラギ ECB総裁、講演 独 IFO企業景況感指数(9月)	米 FOMC(26日まで) 米 FHFA住宅価格指数(7月) 米 消費者信頼感指数(9月)	米 FOMC政策発表、経済予測 米 ハウエルFRB議長会見 米 新築住宅販売件数(8月)	米 ハウエルFRB議長、上院関連 イベントで発言 米 GDP(4-6月、確定値) 米 新規失業保険申請件数 (9月22日終了週) 米 耐久財受注(8月) 米 中古住宅販売成約指数(8月)	米 リッチモンド連銀総裁、講演 米 NY連銀総裁、講演 米 ミシガン大学消費者マインド指数 (9月、確定値) ユーロ圏 CPI(9月、速報値)

[インターバンク市場]

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.020 ~ 0.050
SPOT 2M	△0.010 ~ 0.070
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.070
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初386兆5,100億円から始まり、国債の大量償還(20日)を主因に394兆6,000億円まで増加し、越週した。無担保コールON物加重平均金利は、新積み期初日となる18日は△0.064%から始まった。その後も週末まで△0.064%~△0.063%と狭いレンジで推移した。ターム物は1W物で△0.035%~△0.025%、月末越えとなる期間で△0.02%~+0.001%の取引が見られた。18・19日に開催された金融政策決定会合において、日本銀行は金融政策の現状維持を決定した。来週の主な予定は、黒田日銀総裁が大阪市内で講演(25日)、海外ではFOMC(25~26日)、パウエルFRB議長会見(26日)がある。

[オープン市場]

CP3M(a-1+)	△0.15 ~ 0.001
TDB 3M	△0.170 ~ △0.130
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

<C P>

今週の入札発行総額は約8,700億円で、週間償還総額の約1兆1,900億円を下回った。発行市場は、有利子負債の圧縮目的からの期日落ち切りが多く、発行閑散となった。そのため、週末の発行市場残高は18兆9,600億円弱と、先週末(約19兆1,000億円)から減少した。発行レートは、期内物は0%近辺~浅いプラスレートの出合い。期越え物については、一部に在庫玉確保と見られる深いマイナスレートの出合いがあった。来週の償還総額は、3兆9,400億円程度となっている。月末日償還は約3兆4,300億円で、3月末(3兆5,000億円)とほぼ変わらない金額である。月末市場残高は、16兆円台前半と大幅減少が予想される。期明けには、多くの企業での発行再開から、大型案件が重なり活況となるだろう。発行レートは、ディーラーや投資家の運用ニーズが強く、マイナス~0%近辺での出合いを予想する。25日には、CP等買入オペが4,500億円程度オフアされる予定である。

<TDB>

18日に行われた1Y784回債入札は、最高落札レート△0.1318%(前回債△0.1537%)、平均落札レート△0.1358%(同△0.1557%)と前回からマイナス幅を大きく縮小。21日に行われた3M785回債入札も最高△0.1082%(前回債△0.1196%)、平均0.1142%(前回債△0.1244%)と前回から利回りが上昇した。セカンダリー市場では買いが見られ、同1Yは△0.139~0.138%、同3Mは△0.145%程度まで買いが入るなど底堅い推移となった。来週は28日に3Mの入札が予定されている。

<レポ>

銘柄先決めGCは、週を通して概ね△0.105%~△0.115%での推移。短国1Y,3Mの発行日も水準はほとんど変わらなかった。SC取引では10年340回債、341回債のbidが多く、共に△0.60%台の取引が中心。カレント銘柄は、10年351回債が△0.10%台前半。5年136回債は、21日の国債買い入れオペ後△0.10%台半ばの出合いが一部見られた。その他2年389・390・391・392回債、5年135・136回債、10年338・339・340・341・342・343・344・345・346・347・348・349・350回債、20年164・165回債、30年57・58・59回債、40年9・10・11回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。